

# 持続社会を支える人々の繋がりを整える

## 4.3 情報発信を工夫する(でんけんの発行)

研究成果の地域へのアウトリーチ手法として、プロジェクト情報誌「でんけん」を活用した。これは本プロジェクト成果を一般市民と共有することを目指して発行しているもので、平易な言葉遣いと解り易いレイアウト、さらに地域でそれぞれの立場で活動する人の顔が見えることを心がけて編集されている。これまで0号から4号と特別号2号の計7号を発行した。発行部数は表1の通りである。「でんけん」は、町内回覧で近隣住民に配布するだけでなく、市役所担当窓口や街中の観光窓口等への設置、さらに NPO が運営する市民活動推進センターのホームページ (<http://www.kurara-tochigi.org/>) や Facebook ページ (<https://www.facebook.com/ristex.yokouchi>) でも公表し、幅広く閲覧できるような体制を整えている。

本プロジェクトにおける「でんけん」の役割は、文化財エスノグラフィ調査の成果でもある。インタビューを通じ、地域住民のまちへの想いや地域活動を編集部が拾い上げ、各セッションの繋がりを追うことで地域コミュニティの把握を行った。それらをヨソモノの視点である編集部が再評価することで、伝建地区の魅力を発信するメディアを目指している。



図1 でんけん0号 表紙

表1 でんけん発行部数 (平成 28 年1月現在)

発行号数 発行日	0号 H.27.6.26	1号 H.27.9 .10	2号 H.27.11.15	3号 H.28.3.16	4号 H.28.9.24
特集	伝建に住む	蔵の魅力	祭と地域 - 栃木編 -	まちの職人	祭と地域 - 真壁編 -
発行部数	724	945	597	441	391

情報誌作成時において課題としていたのは、まちづくりと連動したプロジェクト遂行において、研究者と地域住民をどのようにつなぐのかであった。その他にも、プロジェクトの各ワーキンググループでは地域住民を交えたワークショップなどが随時行われており、Facebook を介して活動紹介が行われていたが、研究対象地の地域住民が閲覧しているのかは疑問であった。このような問題に対し、紙媒体でプロジェクトの進捗を伝える情報誌を作成する編集部が立ち上げられた。発行に先駆け、神楽坂で地域情報紙「かぐらむら」を手がける長岡弘志氏(サザンカンパニー)へインタビューを行い、下記のようなアドバイスとコメントを頂いた。

- ・ 情報誌のネーミングは地域がわかるものにするか副題で必ず入れる(地域が特定できるようにする)。
- ・ 地域の、それも長く住んでいる人を紙面に載せる。
- ・ 地域の代表格の人物は明らかにして話を通す。

